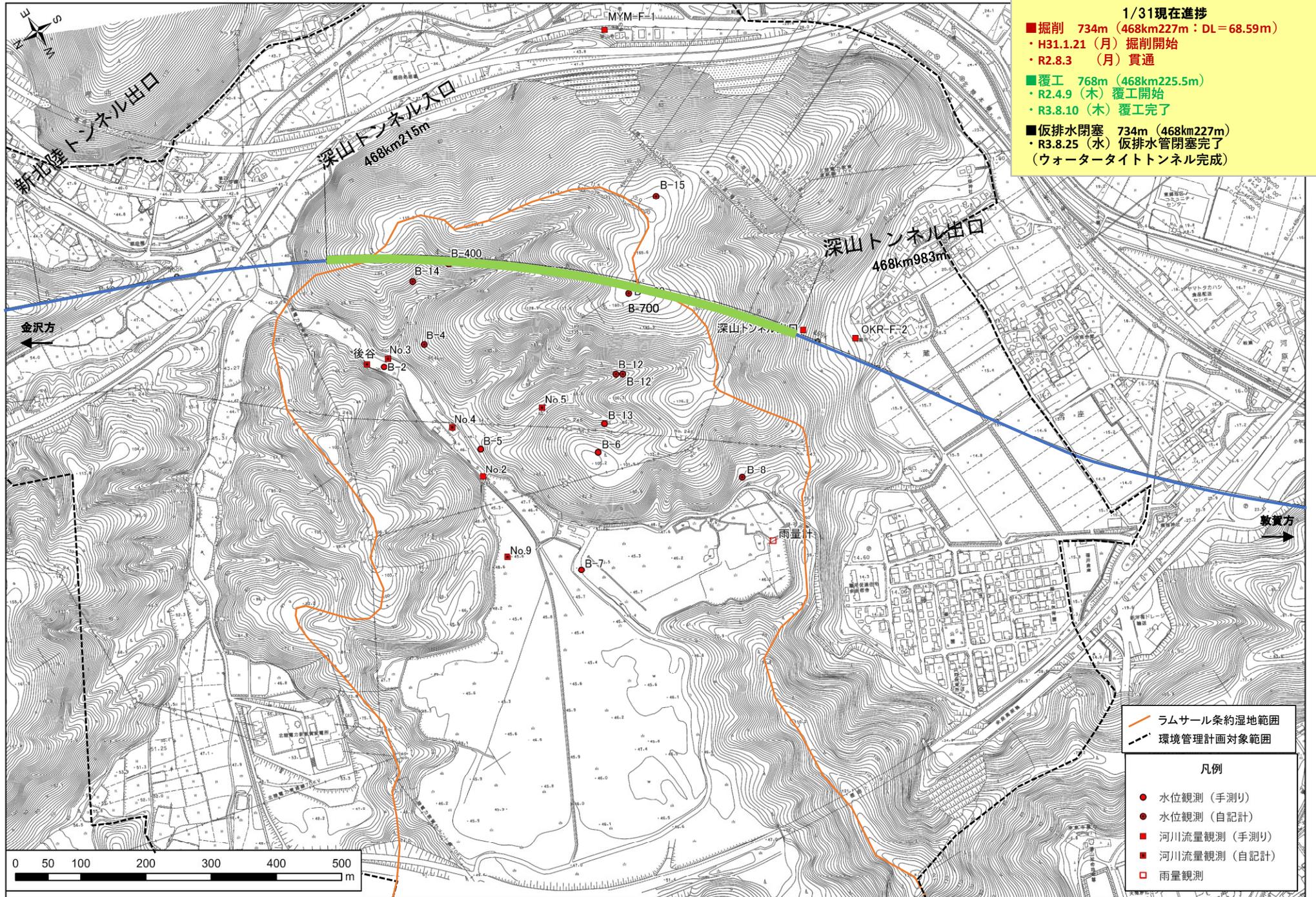


深山トンネル水文調査モニタリング報告書

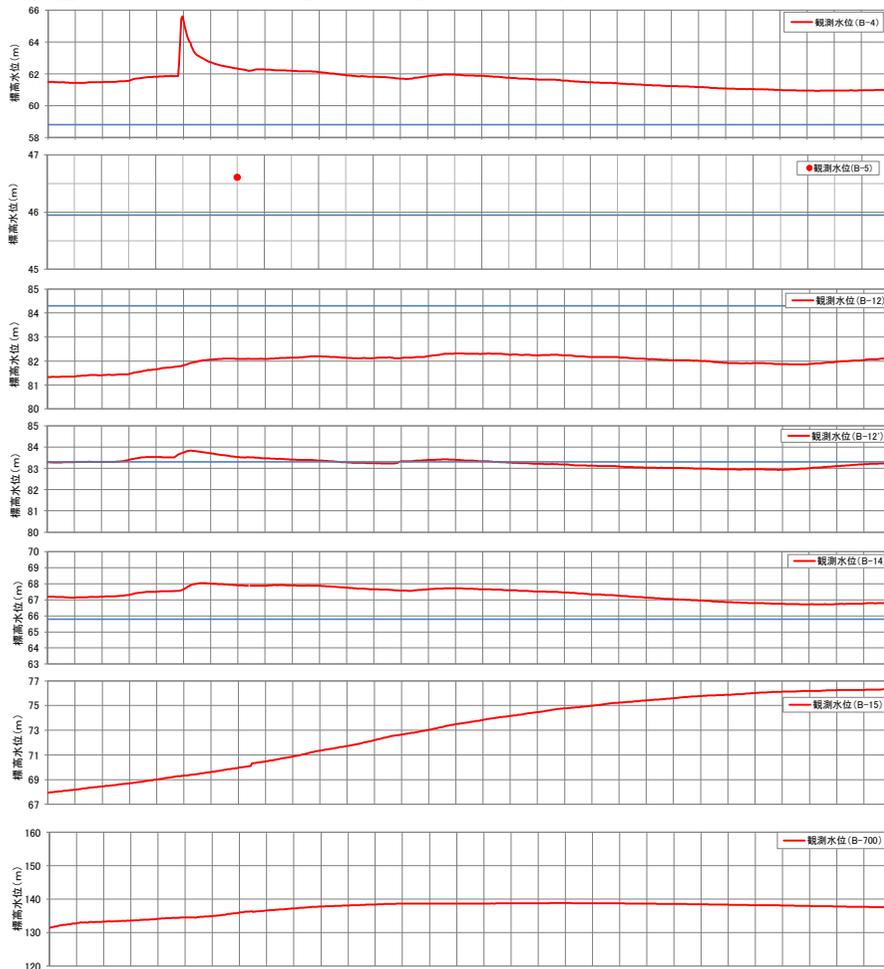
調査期間：令和8年1月1日(木)～令和8年1月31日(土)

「北陸新幹線、中池見湿地付近深山トンネル等工事に係る環境管理計画」に基づき実施している水文環境モニタリング結果について報告する。



※主要箇所のみ抜粋

地下水位観測結果図（自記記録）



B-4 地下水位
過年度最低水位
58.8m

B-5 地下水位
過年度最低水位
46.0m

B-12 地下水位
過年度最低水位
84.3m

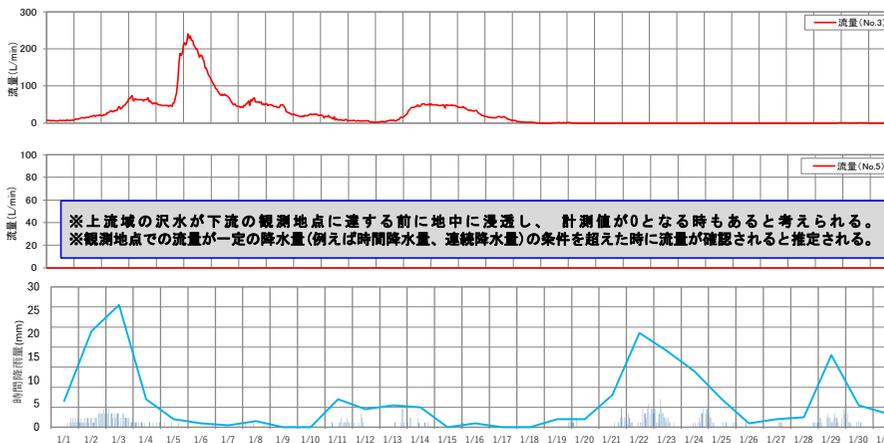
B-12' 地下水位
過年度最低水位
83.3m

B-14 地下水位
過年度最低水位
65.8m

B-15 地下水位

B-700 地下水位

流量観測結果図（自記記録）



No. 3 流量

No. 5 流量

全体総括

- 目立った変動なし □やや変動あり
- 変動あり（注意体制への移行を検討）

期間中の地下水位低下量

- 1m未満ないし増加：B-2、B-4、B-5、B-6、B-7、B-8、B-12、B-12'、B-13、B-14、B-15、B-400、B-700
- 2m未満： □5m未満： □5m以上：

日降水量

- 15mm未満 □15mm以上 ■50mm以上

月降水量

- 80mm未満 □80mm以上 □130mm以上 ■200mm以上

概要

■水位変動について

- ①目立った変動なし。
- ②B-4（自記水位計）：1月4～6日、14～16日は気温上昇に伴う融雪および降雨の影響により、水位の上昇が認められる。なお、中旬以降は急な融雪が生じず、明瞭な水位上昇は見られない。
- ③B-5（手計り）：過年度最低水位を上回っている。
- ④B-12（自記水位計）：1月4～7日、15～16日は気温上昇に伴う融雪および降雨の影響により、水位の上昇が認められる。なお、中旬以降は急な融雪が生じず、明瞭な水位上昇は見られない。
- ⑤B-12'（自記水位計）：1月5～6日、15～16日、29～31日は気温上昇に伴う融雪および降雨の影響により、水位の上昇が認められる。
- ⑥B-14（自記水位計）：1月3～7日、14～16日は気温上昇に伴う融雪および降雨の影響により、水位の上昇が認められる。なお、中旬以降は急な融雪が生じず、明瞭な水位上昇は見られない。
- ⑦B-15（自記水位計）：期間中の水位は上昇傾向である。
- ⑧B-700（自記水位計）：期間前半の水位は上昇傾向を示すものの、後半は横ばいから低下傾向を示す。

■流量変動について

- ①No. 3（自記）：気温上昇に伴う融雪および降雨の影響により、流量が上昇する箇所が認められる。なお、1月下旬は気温上昇による急な融雪が生じず、流量は概ね0L/minで推移する。
- ②No. 5（自記）：期間中の流量は0L/minの状態が続く。
⇒無降雨・少雨時や大雨の数日後において、当該地点の上流域の沢水は観測地点に達する前に地中に浸透することで、流量の計測値がゼロとなっている状況である。
⇒当該地点の上流域で一定の降水量の条件（例えば時間降水量、連続降水量）を満たした時に観測地点で流量が確認されると推定される。

■降水量について

- ①12月の日最大降水量：12/4の24.0mmである。
⇒1月の日最大降水量：1/3の61.0mmである。
- ②12月の降水量：142.0mm、1月の降水量：408.0mmである。
昨年12月は406.0mm、1月は255.0mmである。
平年値（敦賀アメダス）は12月は316.7mm、1月は269.5mmである。